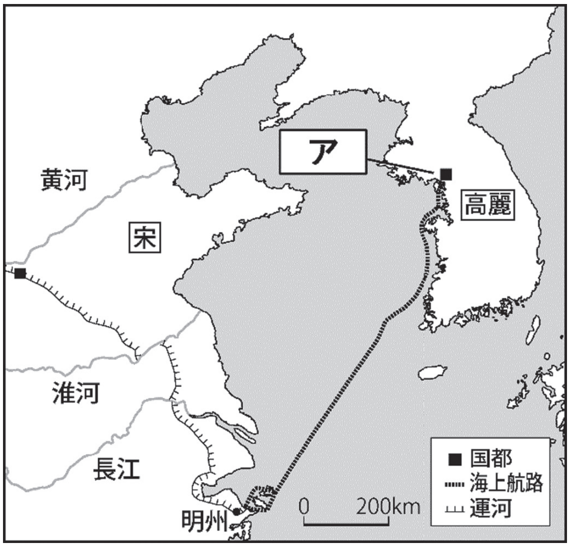
第３講　2025年度 試作問題 第3問

第３問　世界史探究の授業で，地図を利用しながら，外交や貿易などによって発生する人の移動と，移動ルートの選択とについて，意見を出し合いながら考察した。それぞれの授業における考察に関連した次の文章A・Bを読み，後の問い（**問１～５**）に答えよ。（資料には，省略したり，改めたりしたところがある。）（配点　15）

A　ある日の授業では，先生が，1123年に高麗に派遣された宋の使節員が記した見聞録に基づき，宋の使節がたどった海上航路を資料として示した(**図１**)。その上で，移動ルートの特徴と背景について，生徒が意見を出し合った。

図１



あつし：宋の都から高麗の都へ向かうには，北回りで陸路をたどった方が近くて簡単そうに見えます。しかし宋の使節は，遠回りをして，中国南部の明州から船を出し，東シナ海を渡ったわけですね。

すみれ：当初から両国の使者が陸路で行き来することはなかったようですが，それは<u>ⓐ建国以来の宋の北方情勢が関連しているのではないでしょうか</u>。

スンヒ：宋の都と明州は大運河で結ばれていたので，大量の荷物を運ぶ外交使節にとっては内陸水運を利用する方が好都合だったかもしれません。

すみれ：以前の授業で，大運河は［イ］の時代に完成し，その工事の負担が［イ］の滅亡の一因になったと学びました。しかし大運河自体は，その後の時代にも利用されていたのですね。

みのる：当時，宋の使節が高麗に向かう航海で使用した船に関して，宋側の記録である**資料１**と**資料２**を見つけました。海上交通の安全性や安定性は，どのような人々が運航を担っていたかが重要であると思います。

資料１

従来，朝廷が高麗に使者を送る際には，出立日に先立ち，福建・両浙(注)の長官に委託して，現地の商人の商船を募集して雇い入れてきた。
（注）両浙：おおむね現在の浙江省と江蘇省南部に相当する地域。

資料２

皇帝より詔があり，「高麗王の逝去を弔問する使節の船を運行した船主・船頭であった商人に対し，褒美としてそれぞれ下級の官職を与える」とのことであった。

先　生：皆さんよい着眼点ですね。様々な要因が重なり合って利用ルートが決まっていくと考えられそうです。

問１　**図１**中の［ア］に入る都市の名**あ**～**う**と，文章中の空欄［イ］に入る王朝について述べた文X・Yとの組合せとして正しいものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。［14］

［ア］に入る都市の名

あ　漢　城　　**い**　開　城　　**う**　開　封

［イ］に入る王朝について述べた文

X　土地税，人頭税，労役などを一括して銀で納める税制を導入した。

Y　地方に置かれた推薦担当官が人材を推薦する制度を廃止し，試験による人材選抜方式を創設した。

①　あ―X　　②　あ―Y　　③　い―X

④　い―Y　　⑤　う―X　　⑥　う―Y

問２　すみれさんが下線部ⓐのように考えた根拠として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 15

①　宋と高麗の間の地域は，スキタイの活動範囲に入っていた。

②　宋と高麗の間の地域には，フラグの率いる遠征軍が侵入していた。

③　宋と高麗の間の地域では，契丹(キタイ) が勢力を広げていた。

④　宋と高麗の間の地域には，西夏の支配が及んでいた。

問３　**資料１・２**を踏まえ，宋が高麗に使節を送る際，船舶がどのように運航されていたかについて述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 16

①　貿易商人の中には倭寇として知られる者もいたため，彼らの護衛を受けて使節が派遣されたと考えられる。

②　皇帝直属の軍隊が強化されたため，その軍船と軍人が使節の派遣に利用されたと考えられる。

③　軍艦の漕ぎ手として活躍していた都市国家の下層市民が，使節の船にも動員されていたと考えられる。

④　民間商人の海外渡航が広く許され，彼らの貿易活動が活性化していたので，航海に習熟した商船とその船乗りが使節の派遣に利用されたと考えられる。

B　別の日の授業では，生徒と先生が，ヨーロッパの人々がアジアを目指す試みについての資料を基に，15 世紀末から 16 世紀中頃のイングランド商人によるアジア航路の開拓について話をしている。

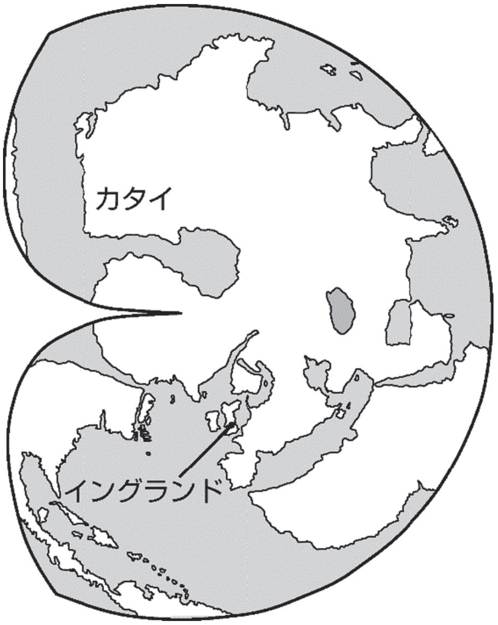
先　生：イングランドは 15 世紀の末から，既にあるルートを使わずにアジアを目指そうとしました。なぜそのような航路の開拓を試みたのでしょうか。

みのる：当時，ヨーロッパの諸勢力は，地中海東岸を経由する貿易を通して，アジアの物産を手に入れていました。その後，アジアとの直接貿易を目指し，喜望峰経由でのアジア航路を開拓したと，先日の授業で学びました。

あつし：こうしたアジア航路の開拓に後れを取ったイングランドにとっては，いずれの航路の利用も既存の諸勢力から阻まれていたため，新規の航路開拓を行う必要があったのではないでしょうか。

先　生：そうですね。このような時期に，ⓑ<u>地理学者たち</u>は，イングランド商人たちに様々な地理情報を提供していました。次の**図２**は，1538 年にネーデルラントのメルカトルが作成した世界地図の一部を抜粋したもので，**記録**は，イタリアのヨヴィウスという人物によるものです。

図２



記 録

北極海から右岸に沿って航行すると，（中略）船はカタイ[(注)]に到達する。 （注）カタイ：現在の中国北部に相当すると考えられる地域。

すみれ：なるほど。このような情報があったのなら，一見突飛に思われるルートが考案されたことにもうなずけますね。

先　生：宋の使節もイングランド商人も，当時の国際環境のなか，様々な事情の下で航路を考案し，選択していたことが分かります。

問４　下線部ⓑに関連して，新航路開拓の背景には，地理学的知識の発展が大きく寄与していたことが知られている。そのことに関して述べた文Ⅰ～Ⅲについて，古いものから年代順に正しく配列したものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 17

Ⅰ　ある人物は，中国で初めて，アメリカ大陸や大西洋を含む世界地図を作成した。

Ⅱ　ある人物は，本格的に極地探検が競われるなか，初めて北極点に到達した。

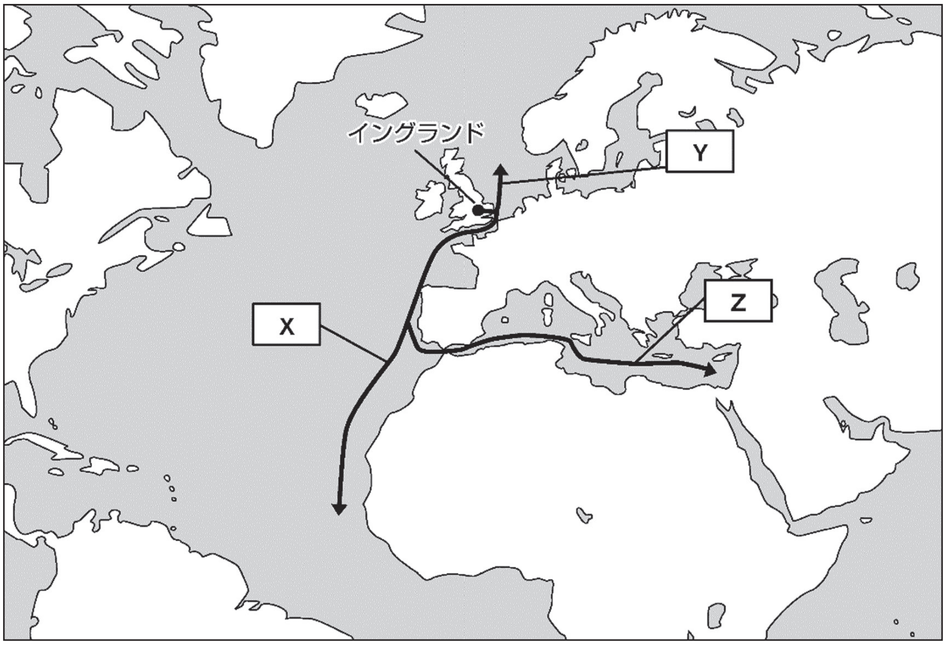
Ⅲ　ある人物は，地球球体説に基づいて，大西洋を西に向かうことでアジアへ到達できると主張した。

① Ⅰ―Ⅱ―Ⅲ
② Ⅰ―Ⅲ―Ⅱ
③ Ⅱ―Ⅰ―Ⅲ
④ Ⅱ―Ⅲ―Ⅰ
⑤ Ⅲ―Ⅰ―Ⅱ
⑥ Ⅲ―Ⅱ―Ⅰ

問５　前の会話文と**図２**及び**記録**を参考にしつつ，イングランド商人による既知のルート利用を阻んだ国**あ**・**い**と，次の図中に示した**X**～**Z**のうち，1550 年代のイングランド商人たちが試みた新ルートとして最も適当なものとの組合せとして正しいものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

阻んだ国

あ　ポルトガル　　　**い**　セルジューク朝



① あ―X
② あ―Y
③ あ―Z
④ い―X
⑤ い―Y
⑥ い―Z

第 3 講　2025年度 試作問題 第 3 問　解答

(全大問合計で 100 点満点)

問題番号 (配点)	設　問	解答番号	正　解	配　点
第 3 問 (15)	1	14	4	3
	2	15	3	3
	3	16	4	3
	4	17	5	3
	5	18	2	3